



銀杏やモミジの葉も、寒さと共に色鮮やかになりました。今からおよそ1000年前、清少納言が書いた随筆『枕草子』の中に、「秋は夕暮れ」（秋は夕暮れがすてきだわ）という文章があります。晴れた日は紅葉と夕暮れの景色をゆったりと楽しむのもいいですね。



## 11月27日はノーベル賞制定記念日



1895年（明治28年）、スウェーデンの科学者アルフレッド・ノーベルが自ら発明したダイナマイトで得たお金を、人類に貢献した人に与えたいという遺言を残しました。ノーベルの死後、財団が設立され、1901年（明治34年）のこの日、第一回授賞式が行われました。

📖『ノーベル賞 最高の栄誉に輝く科学者』 川畑勝 編集

2002年に会社員として初めてノーベル化学賞を受賞した田中耕一さんや、2012年にiPS細胞の研究でノーベル生理学・医学賞を受賞した山中伸弥さんなど、ノーベル賞を受賞した科学者10人の研究と実績について紹介しています。

📖『ロウソクの科学』 ファラデー 著 三石巖 訳

自然科学の勉強の入り口として、一本のロウソクの物質的な現象を考えることほど、最適で入りやすいものはないと、ファラデーは言っています。2019年にノーベル化学賞を受賞した吉野彰さんが子供の頃に読んでいた本です。



📖『老人と海』 ヘミングウェイ 作 福田恒存 訳

漁師のサンチャゴは、84日間不漁が続いて、漁師仲間からは馬鹿にされていました。いつも同乗していた少年マノーリンも、別の船に乗ることになりました。そんな時、巨大カジキと出会い、長い闘いが始まります。著者のヘミングウェイは1954年にノーベル文学賞を受賞しています。

## 今月は紫（パープル）の書名本の紹介です

『むらさき花だいこん』 大門高子 文 松永禎郎 絵

戦場に送られた若者が、怪我をして入院していた野戦病院の外で、小さな女の子から、むらさきの花を手渡されます。戦場での体験で人間の心を失いかけていた若者は、この花を見て平和への決意をします。

『むらさき色の滝』 帯木蓬生 作 小泉るみ子 絵

大藤の咲く山で、おばあさんと庄一がかご作りをして生活をしていました。

おばあさんが病気で倒れ、庄一は薬代のために大切な大藤のつるを切ってしまいます。庄一の思いは、大藤の花に届くのでしょうか。



### 読書月間企画実施中

「読書の秋に本をたくさん読もう！」と、図書委員がクラス対抗の企画を考え、現在進行中です。図書室で楽しい本との出会いがあるかもしれませんよ。



この本、読んでみませんか？（図書委員 寺田翔輝さんおすすめ）

『ジキル博士とハイド氏』 スティーブンソン：作

ジキル博士は、一人の人間には善と悪の二つの人格があると思い、分離することはできないだろうと考え、自分で調合した薬を飲みます。するとジキル博士の中のもう一つの人格である、悪魔のようなハイドが現れました。しだいにハイドの力は強くなっていきます。ジキル博士はどうになってしまうのでしょうか。あなたもこの不思議な魅力を持つ本を読んでみてください。